

令和4年度 病虫害防除技術情報 第5号

令和 4年 7月 21日
大分県農林水産研究指導センター
農 業 研 究 部

トビイロウンカの防除対策の徹底について

本年7月18日に、豊後大野市三重町赤嶺に設置している予察灯で、トビイロウンカが初誘殺されました。

本虫は、令和元年および2年に、県内各地で坪枯れを多発するなど甚大な被害をもたらしており、本年度も発生に十分注意する必要があります。これまでのところ、苗箱施用として長期残効性のトリフルメゾピリム含有薬剤の普及が進んだこともあり、現地巡回調査では本虫は確認されておりません。しかしながら、早植えの水稻を中心に、苗箱施用剤の残効がなくなる時期にも差し掛かっており、今後の発生が懸念されます。

そこで、7月18日の飛来および有効積算温度を元に、防除適期を予測しましたので、今後の防除対策の参考にしてください。

1 トビイロウンカ防除適期の予測

表1 予測されるトビイロウンカの防除適期(7月18日飛来)

地点	防除適期 (第一世代幼虫)		防除適期 (第二世代幼虫)	
国見	8/4 ~	8/16	9/2 ~	9/16
中津	8/2 ~	8/14	8/31 ~	9/14
豊後高田	8/4 ~	8/16	9/2 ~	9/16
院内	8/4 ~	8/16	9/4 ~	9/19
杵築	8/4 ~	8/16	9/4 ~	9/18
武蔵	8/4 ~	8/17	9/5 ~	9/19
日田	8/2 ~	8/14	8/31 ~	9/13
玖珠	8/4 ~	8/17	9/5 ~	9/21
湯布院	8/6 ~	8/20	9/12 ~	—
大分	8/2 ~	8/14	8/31 ~	9/13
犬飼	8/4 ~	8/16	9/4 ~	9/19
竹田	8/4 ~	8/17	9/5 ~	9/21
佐伯	8/4 ~	8/16	9/3 ~	9/17
宇目	8/4 ~	8/17	9/5 ~	9/20
蒲江	8/4 ~	8/16	9/3 ~	9/16

※1 飛来予測日(7月18日)は、JPP-NET病虫害発生予測データベース-ウンカ飛来予測システム(トビイロウンカ、(一社)日本植物防疫協会)及び気象再解析データを元に解析した。

※2 発育ステージに基づくトビイロウンカの防除適期は、飛来予測日(7月18日)を起点として、JPP-NET病虫害発生予測データベース-有効積算温度計算シミュレーションver.2及び各地点のアメダスデータ平均気温(平年値)を元に予測した。なお、予測の際に用いた有効積算温度及び発育下限温度は、表2を根拠とした。

※3 湯布院地点における第二世代幼虫の防除適期終了時期については、収穫時期に差し掛かるため、算出できず。

表2 有効積算温度及び発育下限温度

ステージ	有効積算温度(日度)	発育下限温度(℃)
成虫	125	12.0
卵	135	11.4
幼虫	250	6.5

表3 トビイロウンカの発生時期別要防除水準

発生時期	要防除水準(成幼虫)
7月上旬 ～ 8月上旬	2頭/10株 (0.2頭/株)
8月中旬 ～ 8月下旬	10頭/10株 (1頭/株)

2 予察灯におけるトビイロウンカの発生状況(～7月21日)

7月18日において、2頭が初誘殺された。

※ 過去3年間における初誘殺日

令和元年度：7月12～15日、令和2年度：7月6日、令和3年度：誘殺なし

3 現地巡回調査におけるトビイロウンカの発生状況

(1) 6月16～21日

早期水稻調査 10 圃場および普通期水稻調査 40 圃場のうち調査可能な6圃場ではトビイロウンカは確認されなかった。

(2) 7月13～20日

早期水稻調査 10 圃場及び普通期水稻 39 圃場ではトビイロウンカは確認されなかった。

4 防除上の注意事項

- (1) 薬剤散布については、農薬使用基準(使用量、使用時期、使用回数等)を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。

病害虫対策チームホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

